

特集 酪農経営の向上に貢献できる技術

1 酪農経営の強化は基本技術の見直しから

2007年からの飼料費の高騰は急激であり、大きいため、酪農家の経営努力のみではカバーしきれず、2008年3月の3円の乳価値上げも焼け石に水となった。2008年度に入っても飼料費の高騰が続き、良好な経営だった酪農家の収支まで悪くなった。そのため、本県の乳牛飼養戸数と頭数は2007年8月の602戸、14,074頭から2008年同月の554戸、13,198頭に減少し、生産乳量も前年比92.9%となり、生乳の供給不足が懸念される。

2009年3月の乳価は10円値上げされる予定であるが、このような厳しい時代を乗り切るためには、やはり酪農の基本技術を見直し、経営の体質強化を図る以外に方法はない。そこで、2008年8月に本県の酪農に関係する行政、研究及び普及機関で要点を整理し、4つの基本項目をまとめた(表)。

第1に、酪農収益の確保では出荷乳量を増加させ、副産物である子牛販売の収入を向上させる。そのため、性判定した雌受精卵を移植して、雌牛を選択的に生産し(表紙写真)、乳牛を効率的に改良する(本誌P3)。また、自給飼料を有効利用して飼料費を節減し、牛群検定成績を活用して、乳生産、給与飼料、繁殖管理を見直し、経営効率を上げる。

第2に、換気、細霧^{ふくしゃねつ}、輻射熱の軽減による暑熱対策や牛床、繫留法^{けいりゅうほう}、飼槽、給水、衛生害虫の駆除など牛舎環境を整える。牛にとって快適な環境を確保することにより、夏季の泌乳量の減少を防ぎ、疾病の予防につなげる。

第3に、乳房炎対策として、正しい搾乳手順の励行、ミルカーの自己点検と整備、乳房の衛生管理を再確認して、乳房炎による損害を防止する。体細胞数(SCC)が20万個/ml以上では乳量や乳成分で損失が生じているため、牛群検定成績や自主検査(本誌P4)で細菌感染した個体を見つけ、早期に対応する。ただし、個体乳では分房別には分からないため、カリフォルニア・マスタイティス・テスト(CMT)変法(表紙写真)や新しく設定された個体乳SCCの診断基準値(本誌P5)を参考にして、乳房炎分房の発見と治療を早期に的確に行う。

第4に、繁殖の改善では発情の観察と記録を徹底し、分娩前後の栄養管理^{ぶんべん}に注意する。分娩後3~4回の発情で受胎させ、空胎日数を140日以内に留めることを目指す。さらに、繁殖成績の悪化原因となる分娩時の管理不備^{ていびよう}や蹄病、乳房炎、暑熱にも注意を払う。

2008年9月に酪農経営改善をテーマとした地域研修会が酪農振興協議会により開催され、これらの項目を網羅したリーフレットが酪農団体、農協等に配付されている。

この特集を通じて、基本事項をもう一度確認することにより、酪農経営の安定につなげていただければ幸いである。

富永 敬一郎(淡路農技・畜産部)
(問い合わせ先 電話:0799-42-4883)

表 基本技術を見直し、経営の体質強化を図ろう

- 1 酪農収益の確保: 収益を向上させて、経営を安定させよう
- 2 カウコンフォート: ストレスを軽減して、生産性を向上させよう
- 3 乳房炎対策: 乳房炎の早期発見・即治療に努め、慢性化を防ごう
- 4 繁殖の改善: 空胎日数を短縮して、繁殖成績を向上させよう